

## ビバサポート 2

### 再使用禁止 (排唾管のみ)

#### \*【禁忌・禁止】

##### ＜使用方法＞

- ・再使用禁止(排唾管のみ)
- ・再滅菌禁止(排唾管のみ)

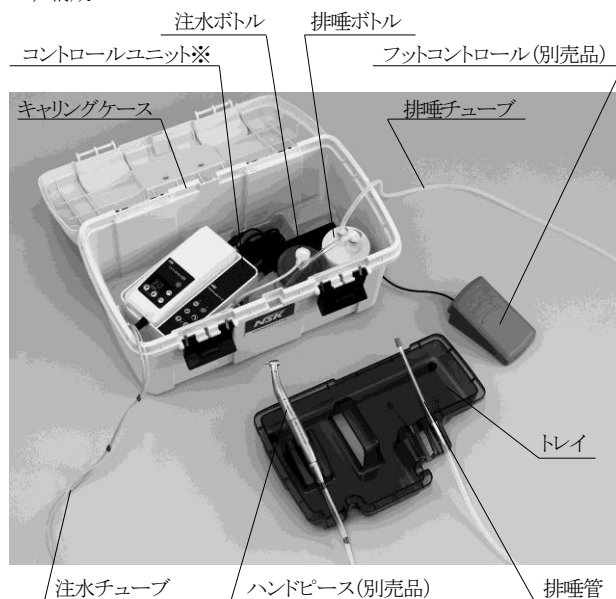
##### ＜併用医療機器＞

本品と電気メス等の電気手術器を同時に使用しないこと。

【「相互作用」の項参照】

#### \*【形状・構造及び原理等】

##### 1) 構成



写真は「ビバメイト G5」(別売品)を接続した場合。

※ 操作パネルの名称や機能については取扱説明書を参照すること。

#### 【使用目的又は効果】

動物の口腔内に洗浄水を供給し、洗浄水とともに排唾を行うこと。

#### \*【使用方法等】

##### 1) 使用前準備

- ① 取扱説明書に記載の方法に従い、各構成部品を接続する。
- ② 注水ボトルに水を入れる。必要に応じ、フットコントロール(別売品)を接続する。
- ③ ACアダプタのプラグを商用電源に差し込み、バッテリー残量により必要な場合のみ充電を開始する。
- ④ 「ビバメイト G5」(別売品)又は「バリ奥斯 370」(別売品)の動作と注水のON/OFFを連動させる場合は、これらの機器とコントロールユニットを中継コードで接続する。
- ⑤ 電源キーを長押しして電源をONにする。④の連動を機能させる時は、シンクロキーを押してシンクロ機能をONにする。
- ⑥ 注水量を設定する。
- ⑦ 【保守・点検に係る事項】に記載の方法に従い、使用前点検を行う。

##### 2) 使用方法

- ① 注水ON/OFFキーを押すか、フットコントロールのペダルを踏み、注水を開始する。
- ② 排唾ON/OFFキーを押す、排唾を開始する。

##### 3) 使用後

- ① 注水、排唾チューブ等をキャリングケース、トレイのそれぞれのホルダに戻し、電源キーを1秒以上長押しして電源をOFFにする。
- ② 排唾管を廃棄する。
- ③ 【保守・点検に係る事項】に記載の方法に従い、洗浄、清掃、収納を行う。

#### 【使用方法等に関連する使用上の注意】

- ・使用時、又は点検時に振動、音、発熱等の異常を感じた場合、直ちに使用を中止すること。
- ・注水ボトルに水道水以外の水を使用しないこと。また、生理食塩水、薬液、酸化電位水、(強酸性水、超酸性水)も使用しないこと。[故障の恐れ]
- ・注水、排唾ボトルの蓋は確実に締め付けること。[内容物がこぼれる、排唾の吸引力が低下する恐れ]
- ・注水、排唾ボトルに内容物が入ったままの状態、ボトルを斜めにしたたり、倒さないこと。
- ・万一の際、速やかに電源コードが商用電源コンセントから取り外せるように設置すること。また、商用電源と電源プラグが接続されている部分から周囲15cm以内には物を置かないこと。
- ・アマルガム充填又は撤去を行う際には、吸引源としてアマルガム分離装置を用いること。

#### \*\*【使用上の注意】

##### 1) 重要な基本的注意

- ・操作者は患者等(介護者や医療スタッフ含む)の手・指・身体の一部が不用意に機器に触れることのないよう注意すること。
- ・本品を取り扱う際は、保護メガネ、マスク、グローブ等を着用すること。
- ・重篤な感染症の恐れがある患者には本品を使用しないこと。[吸引の飛沫による二次感染を防止するため]
- ・操作パネル上の表示部に重い物をのせたり、強い衝撃(物の落下等)を与えたりしないように注意すること。[表示部が故障する恐れ]
- ・バッテリーの液漏れや、外装、ポンプの変形、変色があった時は直ちに使用を中止すること。
- ・製造販売業者が指定するバッテリー以外は使用しないこと。[液漏れ、破裂の恐れ]
- ・煙が出たり、樹脂の燃えているような異臭がする等の異常が発生した場合、直ちに電源をOFFにし、電源コードを商用電源コンセントから取り外すこと。
- ・使用中はコントロールユニットに水、消毒液、生理食塩水等がかからないように注意すること。[ショートによる感電の恐れ]
- ・コントロールユニット、コード類等に薬剤、溶剤、消毒液等が付着した場合、速やかに拭き取る。[変色、変形等の恐れ]
- ・酸化電位水(強酸性水、超酸性水)、強酸、強アルカリ性の薬剤、塩素含有の溶液、ベンジン、シンナー等の溶剤で洗浄、浸漬、拭き取りをしないこと。
- ・直射日光の強いところ、炎天下の車内、火のそば、ストーブの近く等の高温になる場所に、設置及び放置しないこと。[変色、変形の恐れ]
- ・爆発の危険性のある室内、可燃物質の近辺では使用しないこと。[爆発の恐れ]
- ・携帯形及び移動形のRF通信機器は、本品に影響を与えることがあるため使用の際は注意すること。
- ・治療後は、速やかに洗浄、清掃、収納を行い保管すること。[発熱による故障の恐れ]
- ・本品は滅菌出来ないため、滅菌は行わないこと。

2) 相互作用 (他の医薬品・医療機器等との併用に関すること)

併用禁忌 (併用しないこと)

医療機器の名称等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
電気メス等の電気手術器	使用禁止	電磁波の影響を受け、誤作動を起こす恐れ

3) その他の注意

落下等の強い衝撃を与えないこと。[感電、故障の恐れ]

**\*\*【保管方法及び有効期間等】**

1) 保管方法

下記の条件にて保管すること。(ただし、結露しないこと)

温度:-10～50℃

湿度:10～85%

気圧:500～1060hPa

2) 耐用期間

製造の日から、正規の保守点検 (消耗部品の交換) を行った場合に限り7年間 [自己認証 (製造販売業者データ) による] とする。

**\*\*【保守・点検に係る事項】**

1) 洗浄・清掃・収納

＜注水チューブの洗浄＞

- ① 注水ボトルからボトルジョイントをゆっくり引き抜き、注水チューブ内の水が無くなるまで、注水ON/OFF キーを押し注水ポンプの空回しを行う。
- ② 注水チューブの表面を水をよくしぼった布で拭いてから消毒用アルコールを染み込ませた布等で拭き取る。

＜排唾チューブの洗浄＞

- ① きれいな水を入れた容器に排唾管を入れ、排唾チューブ内の汚れが取れるまで吸引する。
- ② 排唾管を容器から引き上げ、排唾チューブ内の水が無くなるまで空運転する。
- ③ 排唾管を取り外し、排唾ボトルのロックスイッチを押しながら排唾チューブを取り外す。
- ④ 排唾チューブの表面を水をよくしぼった布で拭いてから、消毒用アルコールを染み込ませた布で拭き取る。

＜注水ボトル、排唾ボトルの洗浄＞

- ① 各ボトルから蓋、フィルタ、パッキンを外す。
- ② 流水で汚れを洗い流す。汚れが落ちにくい時はブラシ (金属製は不可) 等を使用して洗い流す。
- ③ ボトルにフィルタ、パッキンを取り付ける。

＜コントロールユニットの清掃＞

水をよくしぼった布で拭いてから、消毒用アルコールを染み込ませた布等で表面を拭き取る。

＜収納＞

- ① キャリングケースの所定の位置にコントロールユニット、注水ボトル、排唾ボトル、ACアダプタを置く。  
「ビバメイト G5」、「バリ奥斯 370」を使用している場合は、どちらかをコントロールユニットの上面部分に載せる。
- ② 注水ボトルに水が入っている場合は、水こぼれを防ぐためボトルを空にするか、注水ボトルの蓋にボトルジョイントを接続する。排唾ボトルは、必ず吸引物を廃棄してから収納する。
- ③ トレイをキャリングケースに入れ、注水チューブ、排唾チューブ、「ビバメイト G5」のモータコード又は「バリ奥斯 370」のハンドピースコードを丸く束ねて収納する。
- ④ 「ビバメイト G5」のモータ又は「バリ奥斯 370」のハンドピースコードをトレイのホルダに挿し込む。その際、ハンドピースは必ず取り外す。
- ⑤ その他チューブ、コード類や付属品を入れ、キャリングケースの蓋が閉まることを確認して蓋をロックする。

・洗浄に関する注意

- － ボトル及び注水、排唾チューブは使用後速やかに洗浄を行うこと。  
[血液等の内部凝固による故障や感染の恐れ]
- － 注水、排唾ボトルの汚れを洗い流す際、パッキンを紛失しないよう注意すること。

・収納に関する注意

- － 収納する際は、必ずハンドピースをモータ又はハンドピースコードから取り外すこと。[ケースの蓋に当たって破損する恐れ]
- － キャリングケースの蓋にチューブ、コード等を挟まないこと。  
[故障や破損、蓋が閉まらない恐れ]

2) 使用者による保守点検事項

＜使用前点検 (毎回) ＞

各ボトルや各チューブを接続し、使用前に患畜の口腔外で作動させて、注水、排唾が正しく行われているか点検する。

＜定期点検 (3か月毎) ＞

- ① 使用する機器を接続し、注水をONにして注水量、水漏れ等の異常がないか確認する。
- ② 排唾をONにして、吸引に異常がないか確認する。
- ③ 「ビバメイト G5」又は「バリ奥斯 370」を接続し、連動して注水することを確認する。
- ④ 電池のみで作動させ、電池の残量を確認する。点灯又は点滅している場合は、電池の劣化保護のため、充電をする。


＜消耗部品の交換＞

バッテリーパックの交換については取扱説明書を参照すること。

**\*【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】**

製造販売業者:株式会社ナカニシ

ナカニシお客様相談窓口

 0120-7242-56

受付時間 9:00～17:00 (土日・祝祭日を除く)

TEL :0289-64-3380

FAX :0289-62-5636